

日本語の「降ると思った」と英語の "I thought it was going to rain." は  
実際に降った場合と降らなかった場合でイントネーションはどう異なるか、  
そしてそれはなぜか（暫定的考察）

郡 史郎（近畿音声言語研究会発表資料：3 mar 2012） 5 apr 2012版 12apr2014小補足

1. 英語の "I thought it was going to rain."

表題のような判断を表す英語文の意味，特にその判断の真偽はイントネーションによって異なるということが言われる。文献に見られる例を3つあげる。

① "I thought it was going to rain." 【この部分，3月14日変更】

J. D. O'Connor and G. F. Arnold (1973) *Intonation of Colloquial English* (2nd ed). Harlow, Essex: Longman.

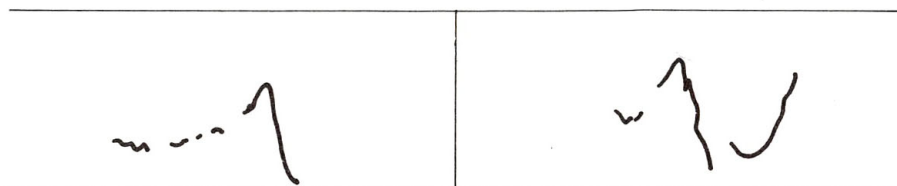
'What was the `weather like? - I 'thought it was °going to `rain. || But it 'turned out °fine after `all. (p. 135)

'Look at the `weather. - ('Ah ,well!) || I `thought it would ,rain. (p. 234)

② "I was afraid it would snow." 【この部分，3月14日変更】

安部勇(1972)『日英イントネーション法』学書房出版40, 64.

さて次の2例は1972年のカナダ，モントリオール市で開かれた国際音声学会議において，イギリスのロンドン大学の Evelyn Abberton 氏の発表になる2つのイントネーションの形式である。一方は「雪が降った」のであって，他方は「雪が降らなかった」のであるけれども，さてどちらがどちらの内容を示すであろうか。



I was afraid it would snow. (2例)

Abberton 氏の説明では左側の図は「雪が降らなかった」のである。snow という単語が高いピッチから低いピッチに落ちて終る。右側の図は「雪が降った」のである。afraidでピッチは高から低に落ち，snowで再びピッチが上昇してゆくのが判る。

③ 【この部分, 4月5日追加】

W. R. Lee (1960) *An English intonation reader*. Macmillan

√*soon* . . . (447)—intensified rise. *I* —thought you √*would*  
—intensification of *I* —thought you \ *would* (but you  
didn't). *I* \ thought you √ *would*—intensification of *I*  
\ thought you / *would* (and you did).

④ "I hoped you'd recognize me."

Ian Thompson (1981). *Intonation Practice*. Oxford UP, pp.56-57.

Sarah Hello, Jane! Nice to see you again after all these years!

Jane I'm afraid I don't know you. I'm . . .

Sarah It's Sarah! I hoped you'd recognize me!

Harriet Hello, Bill! You haven't changed at all!

Bill I hoped you'd recognize me!

以上のような文では、文末語における（高いところからの）下降パターンが「実際には予想・期待と違っていたこと」、文前半で下降し、文末語で上昇するパターンが「実際に予想・期待どおりであったこと」を表すことになる。しかし、なぜそうなるのか。

高いところからの下降に関連して、以下のようなDaniel Jonesの記述がある。

## Emphasis for Contrast

1049. The following are typical examples of the effect of contrast-emphasis in a sentence which ends with low pitch. The intonation may be regarded as a modification of Tune 1.



ai θɔ:t hi: wəz goʊɪŋ tə 'lʌndən.

*I thought he was going to London.*

(The other speaker having just said that his friend was going to Edinburgh.)

Daniel Jones. "English Phonetics." (9 th ed.) p.298

この発音ではLondonに対比のフォーカスがある。「EdinburghではなくLondonに行くのかと思っていた」という説明にもとづけば、実際の行き先はLondonではなかったということになるが、これは認識間違いの表明と解釈できる。

これを I thought it was going to rain.にあてはめると、「降らなかった」ではなく「降った」と、誤って思ったということになり、その結果、「実際には降らなかった」「実際は予想・期待と違っていた」ということになるのであろう。

ただ、他の文献でも本稿p.5に示す発話調査でも、thoughtの部分が高い発音、つまり無標のイントネーションでもこの意味になる。Thompsonの例は主語代名詞が高い。【疑問：無標のイントネーションがかならず特定の解釈に偏るというのは正しいのか。意味も中立的であってしかるべきではないのだろうか。】

一方、「下降(+上昇調)」に関するAlan Cruttenden (1997) *Intonation* (2nd ed.) Cambridge UPの説明にこうある。

Fall-rises have been mentioned three times before in this book. In chapter 3, sub-section 3.2.4, I discussed sequences of two pitch accents involving a fall and a rise which were best analysed as involving two intonation-groups with intonational sandhi operating to delete the boundary marking between the two groups. In chapter 3, section 3.7, I noted that (even leaving aside the cases where the best analysis is into two groups) there appear to be two very different meanings associated with fall-rise tones. This is very clear when we consider examples of divided fall-rises which involve a sequence of two pitch accents, where the first accent (the fall) is nuclear because the second accent (the rise) is downgraded (see chapter 3, section 3.4 above), e.g.

- (i) (But you said she was married.)  
No, I said I \`thought she was /married
- (ii) (It turns out the man Julie is bringing is her husband.)  
Yes, I \`thought she was /married

Of these two examples, (ii) has the meaning which listeners are more likely to ascribe to the sentence when said in isolation. The meaning involved has an element of 'I told you so' and is 'self-justificatory' and/or 'appealing'. Here are some more examples with similar meanings on different sentence-types:

p.53

In this example the fall-rise has been marked with two tonetic-stress marks, indicating a 'split' fall-rise. This indicates clearly where both the accents occur. But the 'split' fall-rise does present another problem in that two distinct meanings are often involved, one of which does equate with the simple fall-rise and one of which does not. The point is illustrated by the following pair:

- I \`thought she was / married (and so she was!)
- I \`thought she was /married (although I wasn't certain and it turns out she wasn't)

p.100

上の説明によれば、まずこのような言い方の場合、下降上昇調と言っても上昇は小さく、前半の「下降調」＋後半の「上昇」調と分析されるべきである。そしてこのイントネーションを使うと、上記(ii)のように「実際にそうであった」ことを言っているように思われがちである。これは自分がそのように判断したことを主張している。

だがそれだけでなく、上記(i)のように「そのように思った」の場合もある。

そしてこの後で、(i)がfall-riseの典型義であるreservations (This meaning indicates that the statement is true under certain conditions but not under others...)であると説明する。However, it is the meaning of the (i) sentence above which probably represents the group of meanings most typical of fall-rise. This group of meanings can be summed up in the word 'reservations' and includes what might be called 'emphatic contrast' and 'contradiction'. It is limited to declaratives.... I have so far talked about two groups of meanings associated with the fall-rise: the (i) meanings ('reservations', 'contrast', 'contradiction') and the (ii) meanings ('self-justification', 'appeal', 'warning').

★この他、 thoughtにフォーカスを置く発音であれば 降るという事態は予想していたことを主張することになる。つまり「降る」と正しく判断したわけで、実際に降ったことになる。【この部分、3月4日補足】

以上を、 I thought it was going to rain. を対象としてまとめると以下のようなになる。

発音	フォーカス	想定しやすい発話意図・発話状況	
下降調 (全文で1単位)	rain にフォーカス	判断内容の対比： 「 <u>降る</u> と思ったけど <u>降らなかつた</u> 」。つまり「降らない」ではなく「降る」という誤った判断をした。	→実際には降らなかった
	中立的		? →実際には降らなかった
前半の下降と後半の小さい上昇調 (有標) (2単位?)		(i) 'reservations', '(emphatic) contrast', 'contradiction' かならずそうとは限らないが；実際は違うかもしれないけど、	→実際には降らなかった
		(ii) 'self-justification', 'appeal', 'warning' 降るという事態は予想していたことを主張。 つまり「降る」と <u>正しく</u> 判断した。	→実際に降った (この解釈がされやすい)
?前半の下降のみ	? thoughtにフォーカス	降るという事態は予想していたことを主張。 つまり「降る」と <u>正しく</u> 判断した。	→実際に降った

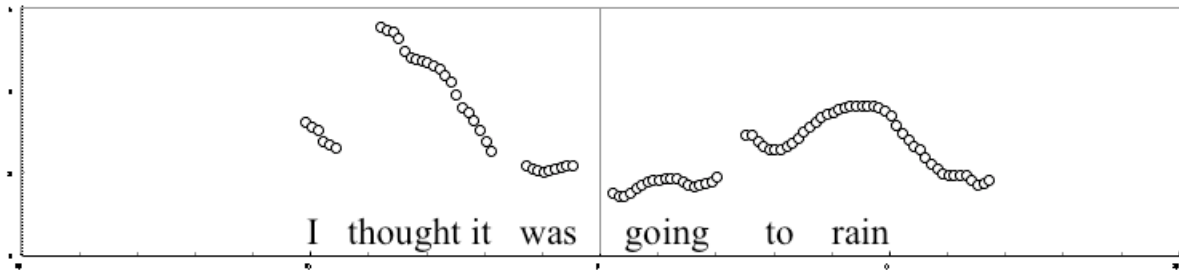
しかし、ここに見られるイントネーションと意味の対応関係は、郡自身もそうだが、日本語母語者などには直感的な理解がむずかしいようである (M. Kamura 2011 "Realization of English Nuclear Accent by Non-Native Speakers (NNS): Relation of Realized Tonicity and Intelligibility between NNS" 『音声研究』 15(1), 73-86 : ただ、同論文ではイントネーションの違いを、「実際に降った」方はthoughtに(下降)核、「実際に降らなかった」方はrainに(下降)核という違いと見ている)。

発話例

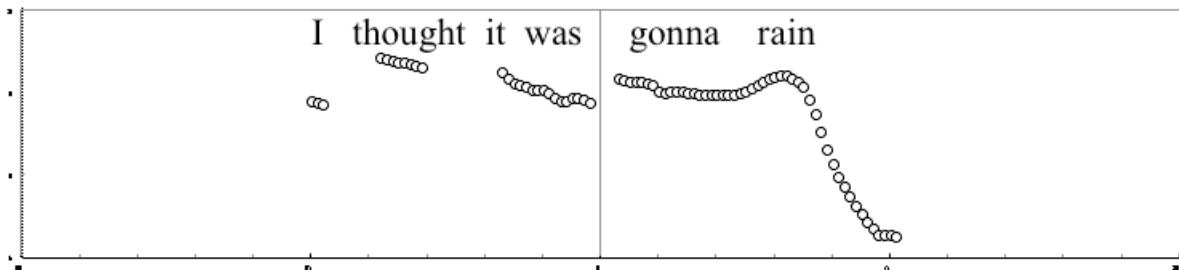
(Kamura 2011の使用音声。著者のご厚意により使用。)

(A: What a lovely day!) B: **I thought it was going to rain.** 実際には降らなかった

イギリス人女性

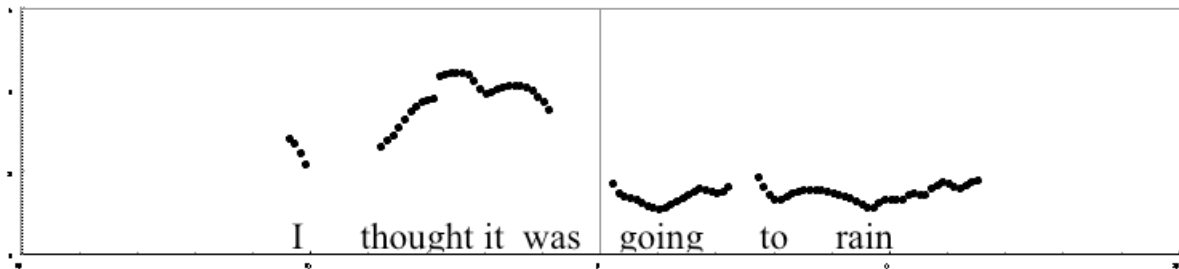


アメリカ人男性

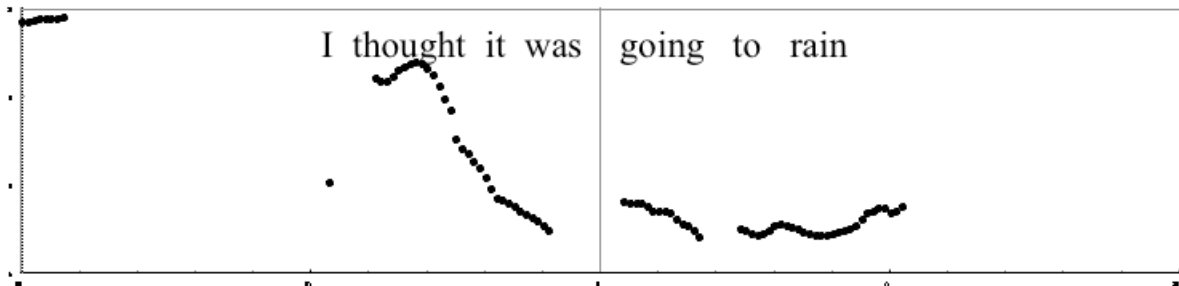


(A: Uh-oh, it looks like rain.) B: **I thought it was going to rain.** 実際に降った

イギリス人女性



アメリカ人男性



## 2. 日本語の「降ると思った」

日本語の「降ると思った」のような判断文でも判断の真偽はイントネーションによって異なる。使い分けの原理には共通性があると思われるが、表面的なイントネーションパターンと判断の真偽との対応関係は英語とは異なる。これが、日本語母語話者が英語におけるこのタイプのイントネーションの使い分けが理解しにくい原因かもしれない。

### 2.1 理論的考察

①「...と思う」「...と考える」「...と言う」のような引用節をともなう複文は、意味的に特別の含意のない中立的な発音では「思う」「考える」「言う」のアクセントの音声的実現を抑えて発音する（以下、簡単のために「アクセントの抑え」のように表現）。これは「...を思う」「...を考える」、そして「...を食べる」「...に変わる」のような「補語+述語」のケースの通常のイントネーションと同じ。

たとえば

— — — — —  
— — — — —  
アシタモ クルト オモイマス

以下では、このイントネーションを表記する試みとして、アクセントの抑えがない場合にはアクセント単位冒頭にふつうの三角記号▲(U+25B2)をつけ、アクセントが抑えられる場合は小さい三角記号▲(U+25B4)をつけることで表してみる。つまり、「▲あした ▲来ると ▲思います」のように書くことにする。

②「降ると思った」でも上記①の規則はあてはまる。もし、その後で実際に降ったか降らなかったかを問題にせず、「けさは かなり曇ってたので、降ると思った」という一文だけを読むような場合である。「▲けさは ▲かなり ▲曇ってたので ▲降ると ▲思った」のようになる。

— — — — —  
フルト オモッタ

したがって、実際に降った場合でも降らなかった場合でも「▲降ると ▲思った」というイントネーションは使えるはずである。

③しかし、「▲降ると ▲思った」というイントネーションを提示して、「これはその後で実際に降ったときの言い方ですか、それとも降らなかったときの言い方ですか」というような判断を求めると、たいていはその後で実際に降らなかったときの言い方だと答える。なぜか。

これは、「▲降ると ▲思った」は、「降ると」にフォーカスがある場合の言い方でもあるからだと思われる。「降ると」にフォーカスを置く文脈としてありそうなのは、「降ると思ったけど降らなかった」ような対比の状況である。つまり、「▲降ると ▲思った」は本来中立的ではあるが、実際に降ったのか降らなかったのかとあえて聞くと「降ると思ったけど

「降らなかった」という発話意図を想起しやすいので、「降らなかった」と答えるのである。

④一方、「▲降ると ▲思った」のように、「思う」のアクセントを抑えないで言うこともある。これは「思った」の方にフォーカスがある場合の言い方である。「思った」ことをアピールしたい場合、「自分はそう思ったんだぞ」と主張したい場合である。降るという事態は予想していたことを主張するというのがその典型的な発話状況であろう。予想どおりであったことを感慨深げに言う場合も含まれる。

— — — — —  
フルト オモッタ

要するに、このイントネーションは実際に降ったという発話状況での発音だと思しやすいわけである。したがって、実際に降ったのか降らなかったのかと聞くと「降った」という答えが得られやすいのであろう。

⑤まとめると以下のようになる。

発音	フォーカス	想定しやすい発話意図・発話状況	
▲降ると ▲思った	中立的		どちらもあり
	「降ると」にフォーカス	判断内容の対比： 「降ると思ったけど降らなかった」。つまり「降らない」ではなく「降る」という誤った判断をした。	→実際には降らなかった
▲降ると ▲思った (有標)	「思った」にフォーカス	「思っていないことはなく思ってた」。降るという事態は予想していたことを[感慨深げに]主張。つまり「降る」と正しく判断した。	→実際に降った

## 2.2 聴取実験

東京方言話者による「▲降ると ▲思った」「▲降ると ▲思った」の二種類の発音を聞かせて、それぞれについて、実際には降らなかった場合の発音か、実際に降った場合の発音か、判断を求める。

判断方法としてふたとおりを試した。

### 2.2.1 実際には降らなかったか降ったかのそれぞれの意味について、ふたつのイントネーションの適合性（自然性）判断

協力者は京阪神を中心とする39名。「標準語」のイントネーションとして判断を求めた。方法はページ下に示したとおりで、インターネット上での協力者ごとの個別聴取。

結果として、実際には降らなかった場合は「▲降ると ▲思った」が自然、実際に降った場合は「▲降ると ▲思った」が自然という判断がなされる傾向が強いことがわかる。特に実際に降った場合と「▲降ると ▲思った」の結びつきは強固である。その他にはゆれがある。特に、「▲降ると ▲思った」に「わからない」がやや多いのは、このイントネーションの中立性の反映か（しかし、次節の実験方法では再現されない）。

意味	イントネーション	自然	変	わからない
降らなかった	▲降ると ▲思った	<b>25</b>	12	2
	▲降ると ▲思った	9	<b>26</b>	4
降った	▲降ると ▲思った	8	<b>24</b>	7
	▲降ると ▲思った	<b>36</b>	3	0

「(雨が) 降ると思った。」と言う場合でも、状況次第でイントネーションが変わるようです。  
下の状況ではどんなイントネーションがふさわしいでしょうか？ 選んでください。

どんな状況でも使えるイントネーションもあるかもしれません。

何度聞いても、何度やりなおしても結構です。

---

**・実際には降らなかった場合**

朝起きたら空が曇ってました。きっと雨が降るだろうと思ったので  
かさを持って出かけました。  
でも実際にはその日は雨は降りませんでした。

・そのような場合に、朝思ったことを思い出して「(朝起きたとき) 降ると思った」と言うとするとき、  
次のイントネーションはふさわしいと思いますか。実際にはその後降らなかった場合です。

◀▶ ○ 自然    ○ 変    ○ わからない

・同じ状況（その後降らなかった場合）でこのイントネーションはどうですか。

◀▶ ○ 自然    ○ 変    ○ わからない

## 2.2.2 個別のイントネーションについて、どの意味かを重複可で判断

意味の選択肢としては、《降った（「そしたらやっぱり降った。」と続く場合）》、《実際には降らなかった（「けど降らなかった。」と続く場合）》、《変》を設定。

また、文末の夕を強調型上昇調にした「▲降ると ▲思っ「た」」についても判断を求めた（フルトオモ区間は同じ音声を使用）。協力者は京阪神を中心とする43名（前節と10名重複）。方法はページ下に示したとおりだが、ここでは2グループに分けて教室で一斉聴取。

結果として、前節の実験方法と同様、実際には降らなかったと「▲降ると ▲思っ「た」」、実際に降ったと「▲降ると ▲思っ「た」」の結びつきが強い。ただし、ここでは、実際に降った場合と「▲降ると ▲思っ「た」」の結びつきが特に強いということはない。

むしろ、実際に降った場合と強調型上昇調の「▲降ると▲思っ「た」」の結びつきが特に強い。これは、「わかっ「た」」「わかって「る」」「わかってま「す」」に見られるように、非難がましく言う場合も含めて、よく知っている相手に対して自分の要求・意志・意見の訴えかけ・判断の正しさの認知要求を行うという機能がこの音調にあるためということで説明できる。

イントネーション	実際には降らなかった （「けど降らなかった。」と続く場合）	実際に降った （「そしたらやっぱり降った。」と続く場合）	どちらの場合もある	変
▲降ると ▲思っ「た」	30	4	8	1
▲降ると ▲思っ「た」	7	27	8	1
▲降ると ▲思っ「た」	1	40	2	0

「（雨が）降ると思っ「た」」と言う場合でもイントネーション次第でニュアンスが変わるようです。特に、

- ・「降ると思っ「た」。そしたらやっぱり降った。」
- ・「降ると思っ「た」。けど降らなかった。」

の場合があります。また、そのどちらにも使える場合があるようです。

では下の言い方はどうでしょうか？ 選んでください

●降ると思っ「た」(1)：その後で実際に降ったときの言い方だと思いますか？

- 降った （「そしたらやっぱり降った。」と続く場合）
- 実際には降らなかった （「けど降らなかった。」と続く場合）
- どちらの場合もある
- 変

●降ると思っ「た」(2)：その後で実際に降ったときの言い方だと思いますか？

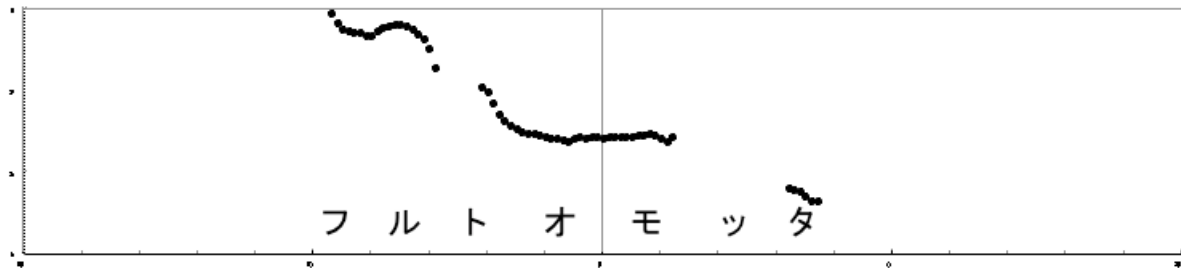
- 降った （「そしたらやっぱり降った。」と続く場合）
- 実際には降らなかった （「けど降らなかった。」と続く場合）
- どちらの場合もある
- 変

●降ると思っ「た」(3)：その後で実際に降ったときの言い方だと思いますか？

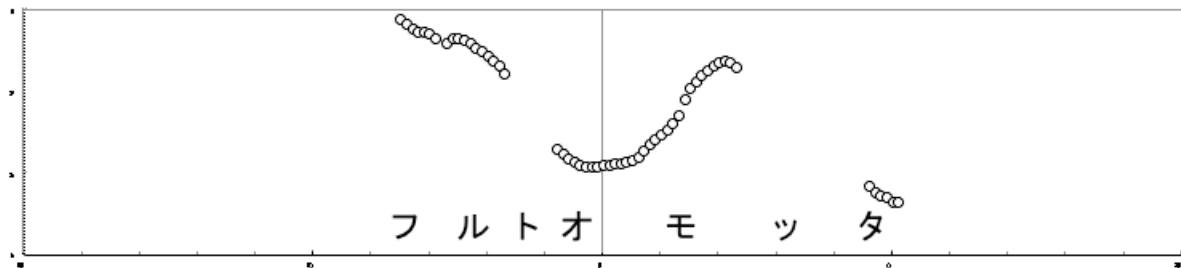
- 降った （「そしたらやっぱり降った。」と続く場合）
- 実際には降らなかった （「けど降らなかった。」と続く場合）
- どちらの場合もある
- 変

発話例と聴取実験の使用音声 (八王子, 女性話者)

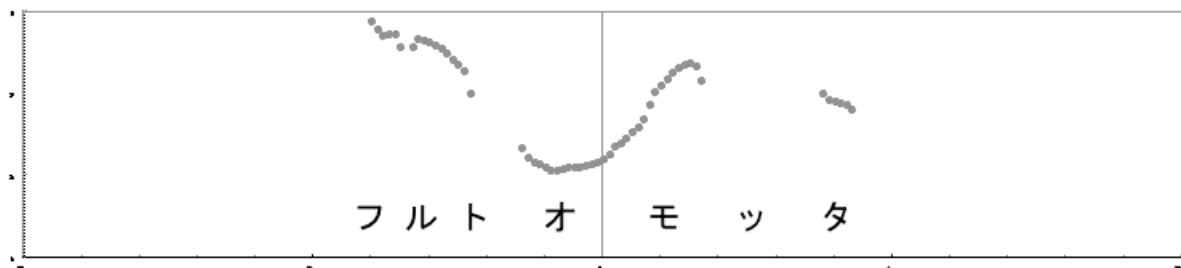
▲降ると ▲思った



▲降ると ▲思った



▲降ると ▲思った



### 3. まとめと日英の比較

#### ■英語

発音	フォーカス	想定しやすい発話意図・発話状況	
下降調 (表面的イントネーションとしては「▲降ると▲思った」に相当)	rain にフォーカス	判断内容の対比： 「 <u>降る</u> と思ったけど <u>降らなかつた</u> 」。つまり「降らない」ではなく「降る」という <u>誤った</u> 判断をした。	→実際には降らなかった
	中立的		? →実際には降らなかった
前半の下降と後半の小さい上昇 (有標)		(i) 'reservations', '(emphatic) contrast', 'contradiction' かならずそうとは限らないが；実際は違うかもしれないけど、	→実際には降らなかった
		(ii) 'self-justification', 'appeal', 'warning' 降るという事態は予想していたことを主張。 つまり「降る」と正しく判断した。	→実際に降った (この解釈がされやすい)
?前半の下降のみ (表面的イントネーションとしては「▲降ると▲思った」に相当)	? thoughtにフォーカス	降るという事態は予想していたことを主張。 つまり「降る」と正しく判断した。	→実際に降った

#### ■日本語

発音	フォーカス	想定しやすい発話意図・発話状況	
▲降ると▲思った	中立的		どちらもあり
	「降ると」にフォーカス	判断内容の対比： 「 <u>降る</u> と思ったけど <u>降らなかつた</u> 」。 つまり「降らない」ではなく「降る」という <u>誤った</u> 判断をした。	→実際には降らなかった <b>(※どんな意味か聞くところの解釈が好まれる)</b>
▲降ると▲思った (有標)	「思った」にフォーカス	「 <u>思っていない</u> ことはなく <u>思ってた</u> 」。 降るという事態は予想していたことを[感慨深げに]主張。 つまり「降る」と正しく判断した。	→実際に降った

このまとめは、あくまで実際にふったかどうかという観点からの整理であり、それぞれのイントネーションがそれだけを表すものではないが、【以上3月4日補足】この分析が正しければ、

(1) イントネーションとして無標の言い方（日英とも「降る」が音として目立つような発音）について実際には降ったのか降らなかったかと聞くと、英語も日本語も「実際には降らなかった」の意味に解されやすいということになる。その意味では日英共通である。

(2) 文末要素を際立たせるイントネーションについては、英語（イントネーションとして無標）では「実際には降らなかった」になるが、日本語（イントネーションとして有標）では「実際に降った」の意味に解されることになる。

【2014年4月補足】英語での正解がわかりにくいのは、結局、語末を際立たせる発音が中立的だというのが納得しにくいからか。